

令和7年度社会福祉法人こどもの国協会事業計画

1. 運営の理念

こどもの国は、次代を担う児童を明るく健全に育てるための児童厚生施設として、以下の理念のもとに運営する。

- (1) 美しい自然環境のもと、児童が遊びを通して自主性、創造性を育てるとともに、健康を増進し、情操を豊かにする。
- (2) 全国の児童厚生施設のセンターとしての指導的役割を果たす。

2. 運営の目標

こどもの国は、以下の目標のもとに運営する。

- (1) 児童の発達に合わせて、健全な遊びを十分に可能とし、個人や家族あるいは団体に利用できるよう配慮する。
- (2) 児童の健全育成という原点を踏まえながら、時代状況に応じた運営に努力する一方、興味本位や営利に傾かないよう配慮する。
- (3) 施設運営は独立採算を原則とし、入園料及び利用料を主な財源としつつ、財源面で運営上必要な工夫を図る。諸費用の上昇等により入園料及び利用料を適切な水準に見直す必要がある場合は、利用者に過度な負担とならないよう配慮する。
- (4) 安全で自然豊かな子ども達の遊び場としてさらに発展していくことが出来るよう、地域との連携を含めた運営面を中心とした検討を行う等、安定的な運営の確保や自然環境の保護等に努める。
- (5) 開園60周年を迎えることから、開園60周年記念事業等を実施することにより、あらためて開園の由来を周知するとともに、利用者の拡大に努める。

3. 目標入園者数

令和7年度の入園者数（有料）は85万人を目標とする。

コロナ禍による臨時閉園などがあった令和2年度以降の入園者数実績は、令和3年度76万4千人、令和4年度77万6千人と回復。令和5年度は、少年サッカー場、ミニSL、ローラー滑り台の改修に伴う長期間の利用中止や猛暑などの影響で72万人の減少に転じたことから、令和6年度の目標入園者数は、令和3年度以降の85万人から80万人に下方修正した。

しかし、令和6年度は7月に酷暑などによる落ち込みはあったものの、第1四半期が好調で、冬のスケートの利用者もコロナ禍前の令和元年度を上回るなど入園者数も回復の兆しをみせている。これに加え、令和7年度は、4月から開園60周年記念イベント等による入園者数の増加が見込まれることから、再び目標を85万人とする。

4. 開園60周年特別行事等

- (1) 「建物ガイド 新進建築家の構想から60年」の発行（3月上旬～）
園内散策用のガイドブックとして、開園当時の新進建築家らの構想や建物、その痕跡などを写真や図面、地図入りで紹介する小冊子を販売（1部200円）。
- (2) 記念入園券の発行（4/1～）
発券窓口で、2種類の絵柄（白鳥湖の今昔の写真）の記念入園券を、販売時期をずらして各15万枚販売する。また、園内売店で、割引記念入園券セット（大人2枚、こども1枚。定価1,400円を1,200円）を200セット販売する。
- (3) ユウスゲの記念植栽セレモニー（4/19）
開園50周年の際に御所からいただいた「ユウスゲ」の植生域を、開園60周年を機に数年かけて拡大する。新たに入り口の時計塔横にも植える計画で、記念事業の開幕イベントとして公募した希望者に株の植栽と播種をしていただく。
- (4) 「思い出の遊具」写真展（4/29～12/30）
協会所蔵の昔の遊具の写真50点程度をパネル化し、エリア別に、ふれあい学び館に展示する。パネルにできなかった写真は学び館内のモ

ニターでも流し、当時を懐かしんでいただく。

- (5) 思い出メッセージ募集（3／15～10／31）
「こどもの国の遊具」や「こどもの国で遊んだ」思い出などを寄せていただく。インターネットで投稿を募るとともに、上記写真展会場でも備え付けのポストで受け付ける。集まった「思い出」の一部は適宜、特設ホームページやふれあい学び館で紹介する。
- (6) 「思い出」吹奏楽（5／10）
こどもの国でしばしば自主公演している吹奏楽の実力校の東海大相模高校、横浜創英高校、横浜市立谷本中学校の吹奏楽部に依頼し、「こどもの国の歌」をはじめ、懐メロなど昔の楽曲を平成記念館で演奏していただく。
- (7) ダンスフェスティバル（6／7）
中学校の学習指導要領で必修となり、また昨今、若い世代から愛好者が増えているダンスのイベントを、平成記念館を会場に初めて主催する。近隣小中学生の団体6～10チームが参加し、午前、午後の2回公演の予定。
- (8) 三世代大運動会（仮称）（10／11）
老若男女の3世代が参加できる種目（玉入れ、大玉転がし、ピンポン玉運び、〇×クイズ）と併せて、NHKおかあさんといっしょ第11代体操のお兄さん（小林よしひさ氏）と楽しく体操する企画。会場の中央広場周辺では握力や背筋などの体力測定も実施する。
- (9) ステージショー「ケロポンズと歌って踊ろう」（10／25）
あそびうたや体操の楽曲・振付制作を手掛け、また親子コンサートや各種イベントに出演し、子どもたちに人気の音楽ユニット「ケロポンズ」によるステージショーを平成記念館にて午前、午後2回公演予定。
- (10) 資料集「(仮) この10年の歩み」発行（令和7年度中）
開園50周年以後10年間の入園者数などの各種データ、催事や施設整備履歴等をまとめた小冊子を協会内部向けに発行。データだけでなく、年度ごとの要約や60周年記念事業の内容等も加える。

5. その他の主な自主事業

「こどもの国協会の解散及び事業の承継に関する法律」第1条第3項に掲げる事業として、既存施設・設備を引き続き運営するほか、豊かな自然を活用した各種の催事・事業を進め、学校教育では得がたい学びの場、自然とのふれあいの場、遊びの場、親子の絆づくりの場として、主な次の事業を行う。

なお、開園60周年にあたり、例年開催しているイベントについても可能な範囲で「60th」を冠し、付加価値をつけて実施する。

(1) 自然と親しむ四季折々の事業

恒例の「野草の天ぷら」、「じゃがいも掘り・サツマイモ掘り・枝豆収穫」、「シイタケのほだ木作り」に加え、コロナ禍で中止していたバーム

クーヘン作りを再開。新たに五平餅作りも実施する。

野鳥、セミ、バッタ、草花、木の実など園内の自然と親しむ四季折々の催しを開催するほか、平日に大人を対象とした自然観察会を実施する。また、新たな企画として、簡単な自然などを紹介するミニ説明会（紙芝居形式）をビジターセンターで行い、来館者数の増加を目指す。

(2) 季節ごとの集客イベント

恒例の「春まつり」は「60th」企画として、自然に関するクイズを解きながら園内を散策する「自然探偵ハイク」を実施する。新規イベントとして、参加者がグループに分かれて、体に付けたポイをめがけて水鉄砲で撃ち合う「びちょぬれ水鉄砲合戦」夏の陣（7月）、秋の陣（9月）を開催する。これら季節のイベントでは、複数のキッチンカーに出店を依頼し、賑わいとともに関食の充実を図る。

(3) プール・スケート等

夏季のプールは、8月中の特別開園日を1日増やすとともに、8月末の平日の開場日を増やして利用者増を見込むほか、利用者の少ない25mプールについては、外部業者によるアトラクションの運営を検討する。

スケート場は、冬季に例年通りの営業を行うが、秋の改修工事により貸し靴スペースが1階に変わる予定で、利用者にとって動線がスムーズになる見通し。

平日、シニア層をはじめとする自然愛好家などを対象に園内の自然の中を歩くノルディックウォーキングは、より参加しやすい当日受付制で実施する。

6. 雪印こどもの国牧場と連携した事業

雪印メグミルクが、創業100周年記念事業として「ミルクフェスティバル in こどもの国」を、5/17に開催。新ミルクプラントのグランドオープンと併せて、遊牧場を中心にイベントを展開する。恒例の「桜と羊のフェスティバル」（3月末～4月初め）、「牧場まつり」（11月）も含め、いずれも「かざぐるま工作」などで協力する。

7. 企業・関係団体の助成や協賛等による事業

(1) フォトコンテスト2025

「こどもの国の春を感じて」をテーマに実施するフォトコンテストは、60周年記念として募集期間を例年の4月末からゴールデンウィーク終了まで延長するとともに、60周年特別賞を新設する。助成・後援は、朝日新聞社、朝日新聞出版、資生堂、東急電鉄、ベルマーク教育助成財団、雪印メグミルク、横浜エフエム放送、横浜高速鉄道。

(2) 吹奏楽コンテスト・ブラスフェスティバル

神奈川県、東京都の両吹奏楽連盟の協力により、応募のあった小中学校の吹奏楽部から抽選で参加校を選出し、10月に「こどもの国吹奏楽コンテスト」を開催。また、「ブラスフェスティバル」は、平成記念館を会場として、春、秋、冬の年3回開催とし、記念館の利用促進と認知度アップを図る。

(3) 第44回こどもの国サッカー大会

神奈川県横浜・川崎・相模原・厚木・大和及び東京都町田の近隣6市のサッカー協会と連携し、朝日新聞社、モルテン、雪印メグミルクの協力を得て、11月の2日間、小学生男子と女子それぞれ優勝を競う。

(4) ジャンボカルタとり大会、どんど焼き

テレビ朝日福祉文化事業団の助成を得て、正月行事として恒例となっ

ている「ジャンボカルタとり大会」と「どんど焼き」を開催する。

8. 地域との連携強化

(1) 地域との交流の推進

- ① 夏・冬休みの地元自治会主催の「親子の集い」行事にプール・スケートを無料開放する。
- ② 地元青葉区の区民デーに、中学生以下の入園料を無料とする。青葉区民まつりには、こどもの国として出店等の形で参加する。
- ③ 地元の警察署、バス事業者等が実施する交通安全イベントに場所提供をして連携を深める。駐車場などのスペースを警察・消防の訓練場所として貸し出すことで、地域の防犯・防災活動に寄与する。
- ④ 地域の若年認知症及び障害者団体の就労支援事業として、園内のベンチ清掃の委託実施を引き続き行う。

(2) 地域児童・生徒の体験学習等の場の提供

地元小学校の児童によるチューリップの球根植え、椿の森の散策道路整備などの体験学習や、地元中学校が実施する生徒の職場体験学習を積極的に受け入れ、総合的学習に寄与する。また、県立高校の昆虫調査・採集・標本づくりに協力する。

9. 広報・PR活動

(1) ホームページ、SNS、動画の活用

ホームページやSNSを積極的に活用し、旬の見どころやイベント情報、駐車場の混雑状況などを発信する。施設案内等でも動画を活用するなど、より魅力が伝わりやすい広報に努める。新規に作成したこどもの国イメージ動画をホームページのほか、誘致活動などの場面で活用して集客に生かす。

(2) マスメディア、自治体広報、ミニコミ誌の活用

従来のネット広告に加え、マスメディア、ミニコミ誌、自治体などに開園60周年記念イベント等の情報を積極的に提供し、記事によるイベント情報の拡散を図る。

- ① 横浜市が発行する5月1日付「広報よこはま」(約160万部)の、横浜の歴史・文化・自然などを紹介するコラム「よこはま彩(さい)発見」で、60周年記念事業などを紹介する。

- ② 60周年記念事業や季節のイベント情報を掲載した、「日刊スポーツ号外」（横浜市、川崎市、町田市の8万世帯配布）を春と冬に発行予定。
- ③ 購読者層が来園者層と近い「朝日小学生新聞」（約10.2万部）に年4回、季節のイベント情報を中心に5段広告を掲載する予定。
- ④ 夏の集客を図るため、県内私立幼稚園の在園児の各家庭に配布されるフリーマガジンの月刊情報誌「あんふあん」（約8万部）にプールや夏のイベントの広告掲載をする。

10. 自然環境及び施設・設備

- (1) 自然環境整備及びそれに付随した事業の実施
豊かな自然環境を維持するため、樹木の剪定、伐採を計画的に進める。特に、散策道路沿いのナラ枯れ被害による倒木危険性のある樹木から優先的に伐採を行い、入園者の安全確保を図る。
- (2) プール・スケート場管理棟の改修等
プール・スケートを利用する際の更衣室、貸し靴受付等がある管理棟が、経年劣化による内部のひび割れ等があるため、改修工事及び利便性の向上に資する一部増築を行う。工事期間は、夏のプール営業、冬のスケート営業に支障がないように配慮する。
このほか、日本宝くじ協会の助成により、開園40周年を記念して整備した「おとぎの広場」を更新する予定。

11. 寄付金・遺贈の受け入れ

自然環境の維持や施設整備の財源を多角的に確保するため、個人や法人等からの寄付金や遺贈を受け入れやすくする制度を整え、ホームページやパンフレットなどで広く寄付を呼びかける。